（別紙４(1)）

１　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390600096		
法人名	社会福祉法人平和会		
事業所名	上野町複合福祉施設　グループホームうえのまち		
所在地	岩手県北上市上野町１丁目７－１		
自己評価作成日	平成24年9月3日	評価結果市町村受理日	平成24年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0390600096-00&PrefCd=03&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	（公財）いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1　岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

『家庭的な雰囲気の中で、ご利用者様らしさを損わないようなサービスの提供』を理念に掲げ、ご利用者様一人一人と向き合いケアさせて頂きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、同じ敷地内で合築している小規模多機能居宅事業所、高齢者専用賃貸住宅と一体となって、地域の複合福祉施設として運営されている。
今年度は、避難訓練を2週間に1回のペースで実施しており、（調査の時点で）計25回実施している。
又、運営推進会議を活用した地域との関係を深めている。その経過を、グループホーム職員が「避難訓練を安全、安心に取り組むために」と題して、「災害対策は地域の力を活用して行こう」といった内容で法人内の研修会で発表したところ、最優秀賞を受賞しており、今後の実践に力を与えている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中で、ご利用者様らしさを損わないようなサービスの提供を理念に掲げ、フロアの中に掲示し、確認できるようにしている。	開設時からの理念「家庭的な介護とその人らしさを大切に」したサービスを心がけている。 当グループホームは看取りの例が多いが、本人、家族の意向を大切にし、職員はその時々の係わりを大切にしたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事や清掃活動にご利用者様と一緒に参加している。 地域の中学生との交流も始め、民生委員や近所の方々に声をかけられることが多くなった。	公民館活動の七夕祭り・カラオケ会等にも職員と一緒に参加している。地域の中学校と話し合い、「和太鼓の演奏会」を生徒3人が5回、当複合福祉施設内で開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護をしている家族をサポートする会のメンバーになり、集いの場所の提供や交流の為のプランを考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーの中に区長や民生委員の方がいるので、地域交流について相談をしたり、具体的な事例をあげアドバイスを頂いている。	運営推進会議は2ヶ月に1回実施している。利用者の外出や見守りに、地域の眼や委員からの意見を取り入れている。避難訓練を安心して取り組むためにも、地域の力を取り入れたと家族交流会（17世帯出席）で発表した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターで行っているケアマネジメントの支援会議に出席し、情報交換を行っている。	包括支援センターの年5～6回のケアマネ支援会議への参加、市からの利用状況の相談、認定申請の代行等を通じて協力、連携に努めている。また、母体法人の系列で医療法人をもっており、法人間交流にて情報交換が頻繁にもたれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	9時から18時は開錠している。 身体拘束委員が中心となり、玄関の施錠以外にも、言葉による拘束の勉強会を開き、ケアに活かしている。	身体拘束委員会が中心となって、7月に言葉による拘束の勉強会を行った。10月には身体拘束に関する勉強会（職員自身が体験）を実施予定である。玄関の施錠は夜間以外は行なっていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員が中心となり、高齢者虐待について資料等配布し学んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用しているご利用者様はいないが、資料を配布し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ご利用者様ご家族様に不安や疑問を尋ね、理解していただけるよう説明している。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室担当が、毎月文書で家族様に1ヶ月の様子を伝えている。面会時にも、近況を伝えたうえで、要望がないか聞いている。	家族との面会時に、外出希望や料理、食べ物の好みを聞き取っている。利用者が書くことを忘れないよう文字を書く機会を持っている。家族連絡ノートでは、家族から希望が寄せられており、要望を反映させた事例がある。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の他にリーダー会議を行い、現場で困ることがあれば、すぐ対応できるようにしている。 内容と結果も、その都度申し送りなどで伝えている。	職員会議が月1回、リーダー会議は不定期に実施しており、職員の要望を聞いている。なんでもノートには悩み、相談が記入されており、事業所内で面談を実施している。法人内視察研修は月1～2名で実施され、学んだことを事業所内で発表している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務環境と労働時間を考慮して、夜勤を16時間から8時間にかえた。また、人事考課プログラムを行い職員一人一人が、目標設定を行い向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じ、外部研修を受講し、市内で行われる勉強会にも積極的に参加している。また、法人内研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会に参加し、姉妹法人のグループホームと相互交流研修を行い、情報交換をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始時、本人の思いや不安を傾聴したうえで、何が必要かを見極めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時、家族様が一番困っていることに焦点をあて、改善できるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様ご家族様より話を聞き、支援を行っている。必要であれば居宅支援事業所へ紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来るところは、役割として積極的に動いて頂いている。人生の先輩として、相談や悩みを聞いて貰うこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や生活の様子を毎月手紙で知らせている。専用のノートを使い、情報共有しているご家族様もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物に出かけたり、自宅には帰れなくても、近くまで行き懐かしい場所を訪ねたりしている。	利用者のこれまでの関わりを日々のケアから把握、職員で共有化し、散歩・買い物・美容院等の付き添い、家族と相談による正月・お盆の自宅帰宅（半分の9名）など、馴染みの関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気分転換の為、テーブルの配置を変えたり、ご利用者様同士の性格を把握し、孤立しないよう職員が間に入っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所者様が亡くなるとデスカンファを行うが、ご家族様の参加はまだない。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活の中で会話や行動から一人一人の思いを汲み取り、寄り添い共に行動することから今の状況を把握する。申し送りや気付きをケースに記録し共有している。	事業所内には業務用パソコン（iPad）が設置されており、法人が独自開発したソフトによって一度の入力作業で各種記録簿へ収録されるため、思いや意向の把握がスムーズであり、作業が省力化されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・病歴・家族構成などの把握に努め、各職員が収集した情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人の基本情報から暮らしぶりを把握し現状を理解するよう努める。また、担当職員より気付きやご家族様からの情報を共有し統一したケアが出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用前の事前調査から、本人・家族の意向を伺い、また、生活の変化から起こる状況なども踏まえ担当職員などでカンファレンスを行い、介護計画を作成し、変化がある時に見直しをしている。	担当職員、ケアマネ、管理者等によるカンファレンス会議を行い、ケアプランを作成している。3ケ月毎に状況を確認し、見直しされる。ケアプランは法人独自でシステム開発されたソフトによりパソコンで管理されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に、日々の様子を記録している。また、3ヶ月ごとにカンファレンスを行い、必要であれば介護計画の見直しを行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所のリハビリスタッフを講師に招き浮腫や拘縮予防の対応についての勉強会を行い実践している。本人と家族の希望から実費のマッサージ施行の受け入れなどもしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設での行事、夏祭りや文化祭などの際に地域の婦人部などや家族会に準備から手伝って頂く。夏休みの期間中は、地域の中学生のボランティアの受け入れを行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族より要望があった場合や掛かりつけ医以外の受診(歯科・皮膚科・眼科など)付き添いなどを行い適切な医療が受けられるように努めている。	北上済生会病院と県立中部病院が協力医療機関となっている。かかりつけ医の利用は、原則として家族に通院を対応してもらっている。受診が困難な利用者は、訪問診療を受けている。現在のところ、歯科の協力医療機関は定められていない。	協力医療機関は、利用者の病状の急変等に備えるためものなので、歯科医についても協力医を定められるよう検討されたい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況の変化あった場合、管理者(看護師)に報告し相談している。また、定期的に来苑する訪問看護師に状況伝え状態が把握出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先には情報提供行い、安心して治療が出来るように努めている。また、地域連携室や退院支援の看護師などの関係機関と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、看取りについての説明を行い、今後どのようにしたいのか、グループホームで出来ること・出来ないことの説明を行い、方針を決め支援をしている。また、訪問看護等との連携を行い支援している。	本年3月から9月の間に、何度か看取りを経験している。事前に家族等へ説明し、同意をいただき確認しながら医師、看護師、職員等の関係者で支援された。訪問診療医、訪問看護事業所と契約しており、事業所内で看取っている。訪問看護の費用は自費で支払っていただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力病院の医師による急変時や疾病の勉強会をテーマを設定して行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震発生を想定して、避難訓練を実施した。地域との関わりが出来てきたので、今後協力体制を整えていきたい。 災害時の備品や食料・水などを準備している。	避難する心構えを植えつけるため、今年はこれまでに25回の避難訓練を実施した。夜間訓練は計画中である。地域の方々との係わりも深めて行きたい。法人内研修において、「避難訓練を安全安心に取り組むために」を発表して最優秀賞を得た。内容は地域の力を活用していくための取り組みについてである。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を使用したり、排泄に関しては周りに聞こえないよう耳元で声がけをしている。	利用者の気持ちに寄り添って、否定的な言葉はかけないように配慮している。また、トイレ等へ誘導するときも、表情やしぐさからそれを汲み取り行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のコミュニケーションから得た想い、希望をケアプランにて、反映されている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	勤務体制が以前と変わり、余裕をもって対応できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の際に、女性のご利用者様に対しては、お化粧をしたりする。 また、汚れたらすぐに取り替えるなど、清潔を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼり配りや配膳など、出来ることを手伝って頂いている。	献立は法人本部の栄養士が作成しており、施設内の調理室でまとめて作り、施設内の各事業所へ配食している。10月1日から法人施設内で改修工事があり、調理室がなくなり各ユニットでご飯だけ炊き、おかずの温め等を行う予定である。おやつは利用者と共に作る。	食事は利用者の暮らしの中で重要なことであるので、事業所のキッチンを活用して、事業所利用者と職員が一緒に作る食事の機会を多くすることを検討されたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人に合わせた量を配膳している。 また、状態に応じて食べやすいものを検討し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時に、口腔の状態観察も合わせて行っている。 不足部分を手伝うなど、虫歯予防にも努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間オムツ使用している方でも、日中は出来るだけトイレ誘導を行い、トイレでも排泄が出来るよう努めている。	リハビリパンツが多く、オムツ（夜間3、昼1）、布パンの利用者もいる。トイレは、排泄チェック表により個々の状況を把握し、その様子やしぐさで誘導、排泄を支援している。リハビリパンツから布パンに改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取して頂いたり、日々のレクリエーション活動で運動を取り入れ、便秘の改善に努めている。便秘が続いた場合は、下剤を服用する場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべくご利用者様の希望に沿って入浴して頂けるよう、努めている。 しかし、入浴の間隔があかないよう、調整することもある。	週2回以上入浴するように声かけしている。一般浴槽とリフト付きの特殊浴槽を備えている。重度の方々も希望あれば入浴出来る（現在3名利用）。声をかけても拒否する場合は、時間をずらしたり清拭で対応している。	介護度が高くはない利用者が使用する一般浴槽について、利用者が安全で安心して浴槽を出入りできるよう、浴槽用の手すりの整備などの検討を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人に合わせ、なるべく夜間の安眠につなげられるよう、日中の活動を多く持つよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をファイルにし、職員全員がすぐに見れるようにしている。服薬も、最後まで飲み込んだかを確認するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の体操やレクリエーション活動の他、個人個人に合わせ、食器拭き・洗濯物たたみ等、役割を持って生活して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物へ行ったり、天気のいい日はドライブへ行ったりしている。ご家族様にも声をかけ、一緒に出掛けた事もあった。また、地域の七夕祭りやカラオケ教室に参加した。今後も積極的に関わりを持ちたい。	利用者の状況、希望を聞きながら、花壇等の散歩、買い物やドライブ等へ出かけている。また、町内会や公民館の地域行事にも参加するなど、外出支援に努めている。利用者と家族が一緒に地域交流会参加のためドライブに出かけた事例もある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の難しい方が多く、事務で管理している。希望がある方は、所持できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、電話をかけたり、手紙を書いたりしている。 中学生の太鼓の慰問に、お礼の手紙を書いて頂き渡した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、出来るだけ混乱を招くようなものは設置しないように努めている。また、壁に季節に関係するものを掲示し、出来る範囲で季節感を出せるよう努めている。	共用空間は水場を中心に縦に食事テーブルがセットされ、ほとんどの利用者が窓に向かって座っている。また、四畳半程のスペースの居間がありテレビが置かれている。その壁面には職員の紹介写真、折り紙等が飾ってある。	食堂・居間等は、利用者が日常生活を居心地よく暮らしていくための、大切な共用空間である。趣味の作品展示、季節毎の諸行事の際の写真貼付など、季節感ややすらぐ温かさをかもし出す工夫を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	様子を見て、独りになりたい様子の場合等はお部屋にて過ごされたり、散歩等に出掛けている。また、個々に自分の好みの場所があり、気の合うご利用者様同士、会話をされたりしながら過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の状態に合わせたり、ご自宅での様子に合わせ配置を考えている。 自宅で使用していた布団を使うなどしている。	居室には、ベット、タンス、床頭台が備え付けられている。仏壇、位牌を供えている利用者もいる。家族の写真の持ち込み、畳の利用、ベッドの配置や整理タンスの配置場所等、それぞれ個性的な居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	死角が多く、状況を把握しきれないことがある。声や物音に注意し対応するようにしている。		